

令和7年度 国立国語研究所 運営会議（第3回） 議事概要

日 時：令和7年10月31日（金） 15:00～17:00

場 所：TKP ガーデンシティ PREMIUM 東京駅丸の内中央 カンファレンスルーム 12G

出席者：河原委員、小泉委員、小林委員、近藤委員、滝浦委員、田中委員、投野委員、皆川委員、
浅原委員、五十嵐委員、石黒委員、小木曾委員、小磯委員、高田委員、前川所長

議 事：議事に先立ち、事務局より、「国立国語研究所運営会議規程」第5条第1項による定足数の確認が行われた。

<議事概要確認>

(1) 前回議事概要（案）について

議長から、資料1に基づき、「令和7年度国立国語研究所運営会議（第2回）議事概要（案）」について説明があり、原案のとおり了承された。

<審議事項>

(1) 教授（研究系）の内部選考（昇任）について

所長から、資料2に基づき、内部昇任の手続きに従い、准教授1名から教授昇任の申請があった旨説明があり、人事委員会を設置し審査を開始することが了承された。

(2) テニユアトラック助教に係る審査について

所長から、資料3に基づき、テニユアトラック助教1名からテニユア審査の申請があったこと、テニユアトラック期間中でも評価の上、適格と認められた場合はテニユアを付与できる規定となっている旨説明があり、人事委員会を設置し審査を開始することが了承された。

<報告事項>

(1) 外部評価委員会（令和6年度実績評価）について

所長から、9月30日に国語研外部評価委員会が開催され、機関拠点型基幹研究プロジェクト全体、それを構成する各プロジェクト、及び共同利用推進センター・言語資源開発センター等の令和6年度実績について評価を受け、基本的にはいずれも高い評価を得た旨報告があった。

(2) 第4期中期計画に係る自己点検・評価結果（令和6年度）について

所長から、資料4に基づき、人文機構において、令和6年度における進捗状況の確認及び自己点検・評価が実施され、その結果が7月末に機構ウェブサイトにて公表された旨説明があり、さらに自己点検・評価委員会委員長から、国語研に関する各項目について、いずれも順調に進捗しているとの評価を得た旨補足説明があった。

委員から、外部評価と自己点検評価は作業が大変だと思いが毎年実施しているのかとの質問があり、所長から、大変ではあるが4年目・6年目評価に備えて毎年の実績を積み上げるため実施しているとの説明があった。また、コーパスが使われた論文数はどのように集計しているのかとの質問があり、自己点検・評価委員会委員長から、主に Google Scholar を利用しているとの説明があっ

た。

委員から、コーパスがどのように活用されているのかを把握しているのか、例えば、ユーザー調査や論文のメタ分析を行うなど、ニーズの確認を行っているのか、また、昨今、人文系の評価が叫ばれているが、インデックスのついたジャーナルに投稿する、国際基準の評価を行っている等、人文機構の評価基準を教えてほしいとの質問があり、前者については、自己点検・評価委員会委員長から、実際に分析はしていないが、コーパスの利用登録をする際に利用者に対し、使用目的を記載するよう依頼しているとの説明、後者については、所長から、人文機構で評価基準が議論されているものの、機構特有の問題として、分野の異なる機関で構成されているため、機関間で意見の相違があり、まとめきれていないとの説明があった。

委員から、資料 4-1 を見ると、国語研はもっと多くの活動をしていると思うが、その一部しか記載が無いように見受けられるのは何故なのかとの質問があり、前川所長から、資料 4-1、4-2 は、人文機構の計画の中で国語研に求められている活動を記載しているものなので一部しか記載されておらず、現在作成している国語研外部評価委員会の報告書では管理部門も含めた活動全体が記載されているとの説明があった。

(3) 第 5 期に向けたフィージビリティスタディ等の採択について

所長から、資料 5 に基づき、第 5 期中期計画期間（令和 10（2028）年 4 月～令和 16（2034）年 3 月）における研究活動につながる準備的・萌芽的研究を所内公募したところ 3 件の申請があり、いずれも採択したこと、それらに加えて、所長裁量経費で言語生活調査にかかる研究を実施することにした旨報告があった。

(4) 国立国語研究所宮地裕日本語研究基金による事業について

所長から、資料 6 に基づき、第 3 回学術奨励賞の受賞者、総研大日本語言語科学コース特別奨学金の支給対象者が決定したことの報告があり、併せて、10 月 1 日から応募が開始された第 3 回学術賞・第 4 回学術奨励賞について、周囲へ応募を呼びかけてほしいとの依頼があった。

(5) 共同利用型共同研究の採択報告について

所長から、資料 7 に基づき、6 月開催の第 2 回運営会議以降に、共同利用型共同研究（B）2 件が採択された旨報告があった。

(6) 令和 8 年度概算要求等について

所長から、資料 8 に基づき、令和 6 年度概算要求で採択された「DH によるデータ集積を前提とした言語研究を先導する E3P-Linguistics の確立」の拡充要求として教員 2 名の要求が行われていること、「ライフライン再生（防災設備改修）」として経年劣化が見受けられる自動火災報知設備・非常放送設備の機器更新を要求している旨報告があった。

(7) 国立国語研究所の活動について

所長から、資料 9 に基づき、研究所の運営・体制、イベントの開催状況、広報・社会貢献活動等、国語研の活動状況について報告があった。

(8) その他

・次回開催日について

議長から、第 4 回運営会議を令和 8 年 2 月 13 日（金）15:00～17:00 にオンラインで予定している旨の説明があった。

浅原教授から、「日本語の比喩表現について」と題する研究紹介があり、その後、意見交換が行われた。委員からの主な意見は以下のとおり。

- ・国語研で多くの言語資源が作られている一方、人員・予算不足に悩まされていることを SNS に投稿したところ、大きな反響があった。今、社会には日本語について改めて考えなければならないというムードがあり、何らかの形で働きかけて予算を獲得するには良い時期であると思う。
- ・自大学ではクラウドファンディングの動きがあるが、国語研では難しいのか。また、概算要求で触れられていた准教授の採用に関して、専門分野を「脳活動データ（脳波、眼球運動等）の獲得と分析を専門とする」としているが、他にも認知科学的、生理的な指標があると思うので、書きぶりをもっと広くしてよいのではないか。

以上